

## 第17回 市民芸術祭 を終えて

2月21日(火)～26日(日)の6日間にわたり第17回 狭山市市民芸術祭を無事に開催することができました。幸い初日から天候にも恵まれ、この度新調した「市民芸術祭」の幟旗が、会場の狭山市市民会館入口や周囲を飾り、展示部門を皮切りに、舞台公演、特別展示や模擬店などが、華やかに、賑やかに繰り広げられました。来場者数(延べ人数)は、展示部門3,603人 舞台部門920人 計4,523人と、会場内は終始賑わいを見せました。



展示部門では、1階ロビーの狭山市いけばな連盟による豪華なお迎花に目を見張り、狭山市茶道連盟による狭山の抹茶「明松」を用いた茶席では、お菓子・お道具も「春」を満喫させる演出で、来場者を和ませていました。展示室では狭山市美術家協会の大作、力作が並び、狂言入間川を観る会による大蔵流家元の狂言鑑賞会の舞台写真、狭山市民美術協会の書・絵画・陶芸・写真・手工芸等バラエティーのある作品の数々が来場者を魅了しました。また、狭山市いけばな連盟各流派による見事な「いけ花」には、一作品毎に花材が書き添えてあって皆さん楽しんでおられました。



入間馬車鉄唱歌を歌う園児たち

大ホールロビーの市民参加オブジェでは、『私・家族・狭山の未来』を書いた扇型の色紙が壁一面を埋め尽くし、来場者も思い思いの言葉を書いて飾り、楽しんでおられました。模擬店ではご当地の名産品、狭山茶スイーツ・狭山団子・狭山のごぼりちゃん・さといもコロケや、気仙沼特産品、手作り作品などの各店舗には常に人だかりがして賑わっていました。

震災被災地支援展示コーナーでは、『明日へと歩み出す気仙沼の現在』として、「気仙沼とともに歩む会さやま」によって今年度実施された「気仙沼復幸観光ツアー」で実感した現地の今が展示紹介されました。

『いのち、愛、希望、ふるさと』をテーマにした公募文芸作品展示では、数多くの童句、俳句作品が紹介され、『展示と語り～さねとうあきらの世界～』では、土曜日曜の2日間実演された『かまどの神さん縁結び』の語りが好評でした。

小ホールでの「世代を超えて」では各ジャンルの発表があり、特別出演の笹井保育所園児の元気な歌声に観客は拍手喝采でした。芸術祭最終日、大ホールでの企画舞台は『音楽と踊りでつづる～四季の移ろい～』として、故 吉野弘氏の詩の朗読を軸に、各団体のコラボレーションで初春から冬までの季節をつづり好評を博しました。また、休憩時には、来年第18回芸術祭の企画舞台である市民ミュージカル「ロミオとジェリエット」の劇中歌“両家の争い”を迫力一杯に披露し、出演者・スタッフの募集告知をしました。

会員の方々、ご協力いただいた皆様、大変ありがとうございました。今後も市民芸術祭を市内外にアピール出来るようご協力よろしくお願い致します。

第17回 狭山市民芸術祭実行委員長 竹迫ミナミ